



さわやか

健康
誠実
敬愛

令和6年3月11日 西東京市立田無第二中学校 3月号

努力とは

校長 矢野 尊久

サッカーで有名なリオネル・メッシ選手は、努力についてこんな風に言っています。「努力すれば報われる？ そうじゃないだろ 報われるまで努力するんだ」

メッシ選手ほどのスパースターでも努力は成功のための前提条件のようですが、努力をしたからといって必ず成功するわけではありません。しかし、努力なくして成功はありません。でも「努力が苦手」という人もどうしてもいるわけですが、「努力が苦手」という人はどうすれば良いのでしょうか。私もその内のひとりですが、「続けられない、どうしたら努力できるか？」と悩む人も多いはずです。では、「努力できる人」と「努力できない人」で両者は一体何が違うのでしょうか……。

実は努力とは、根性や精神論でなく方法論だと考えてみると違って来るかも知れません。努力を続けるためには「とにかく頑張ろう」とするのではなく、「どうやって楽に継続できるか」を考えてみる。良い意味で自分を信用しないで、やみくもに努力しないで努力を仕組み化するのがです。例えば、ある教科のテストの点数を上げたいと思ったら、「毎日必ず〇分は勉強する習慣を付ける」など、継続できるための仕組みをルーチン化してみる。その時だけ努力すれば、短期的には結果がでるかもしれませんが、長続きしません。これは、決して頭の良い努力とは言えません。

そして努力は才能でなく、環境も大切です。「努力が出来るのも“才能”」と言う人もいます。しかし、「才能」は目に見えない不確定なものです。そこで、目に見える「環境」を整えることで努力をしやすくなるというわけです。例えば、勉強しやすい環境、継続しやすい環境、心地よい環境を自らつくり出すのです。例えば、図書館で勉強する人が多いのは、静かで集中できる、気が散らない環境に強制的に自分を置いて勉強をするから効率が上がるのではないのでしょうか。

また努力とは結果ではなく過程を大事にしるとも言われています。結果だけを気にしていたら、ゴールしたら努力しなくて良くなります。一番を目指して一番になったら終わりではないのが努力するという姿勢ではないのでしょうか。つまり達成感よりも、今日はこれを学んだという「学習感」こそが努力を続けられる源かも知れません。

最後に努力は習慣です。習慣化できれば努力は日常になります。努力していることが毎日の習慣になることで「やらないと落ち着かない……」というぐらいになればきつとうまく努力していることになるのかも知れません。もちろん努力すれば成功するという保障はどこにもありません。しかし「努力することの価値」を見いだしている人だけが「努力をする人」なのです。

令和5年度もあと少しで終わろうとしています。振り返ってみると、苦しかったコロナ禍を抜けて徐々に学校生活も当たり前の教育活動ができる状態になった年度でした。そんな意味では学校も「努力」をすれば目に見えて良い方向にすすめる年になってきています。来年度も子どもたちために「努力」できる田無第二中学校を目指していきたいと思います。保護者、地域の方には本年度たくさんのご協力をいただいたことにこの場を借りて御礼申し上げます。



◆◇3年生球技大会／令和6年3月8日◆◇

天候のため校庭と体育館で予定されていた3年生球技大会は、体育館のみでのドッジボール大会に変更となりました。急な変更でしたが、クラス一体となったドッジボールも大きく盛り上がりました。投げられたボールをキャッチし、反撃の投球をすると応援している生徒からは大きな歓声があがっていました。卒業まで一週間となった3年生、仲間と過ごすひとつの思い出となったようです。



◆◇2年生校外学習／令和6年3月8日◆◇



3月8日（金）、2年生は昨年度の川越校外学習に続く2度目の校外学習、都内めぐりを実施しました。職場体験終了後の12月から総合的な学習の時間を使い、学習テーマを決め事前学習を行ったり、班員で相談しながら行動計画を立てたり、校外学習のルールを考えたりしながら当日に至りました。

都内めぐりのスローガンは【one team～都内巡りダヨ！全員成長～】に決まりました。昨年度の川越校外学習に比べ、行動範囲が広がると同時に複雑な交通網を使いこなさなければならない状況になり班行動の難易度が上がりました。その難しさを、班員・クラス・学年が協力しあい1つのチームになって乗り越え、全員が成長し全員で楽しもうという意味を込めたスローガンです。

校外学習当日の朝はあいにくの雪模様でしたが、生徒はこれから始まる1日にわくわくした表情でひばりヶ丘駅に集合、出発しました。昼前には晴天に変わり、班行動計画に沿って浅草、上野、東京駅、御茶ノ水エリアに分かれ、学習テーマに基づき学びを深めたり、昼食をとったり、お土産を吟味したりと充実した時間を過ごすことができました。事後アンケートでの「成長した点は？」という質問に対して、「去年よりも協力できた」「前よりも積極的に動いた」「見通しをもって行動できた」「駅の人等に頼ることができるようになった」「周りのことをよく見られるようになった」といった回答がありました。自分自身の成長を感じられる人が多くいたことは非常に嬉しく、3年生に進級する上での頼もしさを感じました。

来年度は集大成となる修学旅行があります。深い学びの修学旅行、最高の修学旅行の実現を目指し、今回の校外学習で培った経験と自信をぜひ活用して欲しいと思います。